

創造的実践力の評価の視点と方法の開発

—「未来そうぞう科」の実践を通じたモデルの作成—

学籍番号 179954

氏名 岩崎 千佳

主指導教員 木原 俊行

1. 資質・能力の育成の社会的要請

本章では、資質・能力の育成に関する社会的要請について述べる。第1節『資質・能力』育成論の背景』では、いわゆる「資質・能力」の育成に関わる社会的背景について言及する。第2節「他校における『資質・能力』育成の現状」では、これまでの研究開発学校におけるカリキュラム開発における、資質・能力の取組みについて論ずる。第3節「本校における『資質・能力』育成の現状」では、第1，2節をふまえた上で筆者が所属する小学校（以下、本校）が研究開発学校としてどのような資質・能力の育成にいかなる形で取り組んでいるのかについて詳述する。

2. 「未来そうぞう科」におけるカリキュラムのPDCA

本章では、本校が新設した「未来そうぞう科」のカリキュラムがPDCAサイクルを経て作成された過程と、その中で明らかになった課題について述べる。第1節「4年間の中期計画」では、昭和52年に文部省（当時）より示された「研究開発学校における評価（1）」を参照しながら、本校における、新教科のカリキュラム開発の4年間の計画について示す。第2節「創造的実践力の育成にかかる課題」では、本校がカリキュラム開発を2年間進める中で浮上した、創造的実践力の育成にかかる課題について述べる。さらにその解決のために始めた、当該カリキュラムの開発に関わる教師間の共通理解のためのワークショップ等を紹介する。

3. 創造的実践力における評価の視点の検討

本章では、カリキュラム開発上の課題として明らかになった「創造的実践力における評価」について、まずはその視点に着目し、検討した過程を述べる。第1節「創造的実践力の評価の視点の抽出」では、評価の視点を定めるため、過去の実践の報告書から、視点に関わる部分を抽出し整理した結果を述べる。第2節「創造的実践力の評価の視点の精選」では、抽出・整理した創造的実践力の評価の視点を精選するための取組みについて、同僚との話し合いも含め詳述する。第3節「評価の視点モデルの作成と活用に向けた検討」では、同僚との話し合いを重ねた結果完成した評価の視点モデルを示す。また、今後の活用に向けての方向性も示す。

4. 創造的実践力における評価の実践Ⅰ—視点検討のために—（2年）

本章では、評価の視点モデルを活用して行った2年生の授業実践とそれを基に行った評価の視点の検討、そしてその修正について述べる。第1節「授業の概要」では、実践した授業の実施時期や学習内容、単元計画等について述べる。第2節「評価の視点の運用」では、作成した評価の視点モデルを実際に授業の中でどのように運用しているのか、授業における子どもの姿や授業に関する討議における教師の発言等を参照しながら示す。第3節「評価の視点の修正」では、他の授業実践や研究開発学校運営指導委員からの助言をもとに修正した評価の視点を報告する。

5. 創造的実践力における評価の実践Ⅱ—視点確立のために—（夏季研修）

本章では、評価の視点の確立のために催した夏季研修の詳細と共に、視点確立までの過程を述べる。第1節「研修の概要」では、夏季研修の目的や方法、大まかな流れなどの概要を説明する。第2節「評価の視点の確立」では、研修の実際を基に、評価の視点の確立に至る経緯を詳述する。

6. 創造的実践力における評価の実践Ⅲ—方法検討のために—（全学年）

本章では、確立した評価の視点を活用するために必要とされる、評価の方法についての検討過程を述べる。第1節「創造的実践力の評価の方法の精選」では、「未来そうぞう科」の様々な授業で運用された評価の方法を抽出・整理し、精選したものを提示する。第2節「評価の方法モデルの作成と活用に向けた検討」では、精選して作成した評価の方法モデルを、実際の授業に活用すべく、同僚と検討を重ねながら授業づくりを進めた過程を述べる。

7. 創造的実践力における評価の実践Ⅳ—方法確立のために—（高学年）

本章では、作成した評価の方法モデルを運用して行った授業実践について述べる。第1節「授業の概要」では、実際に行った授業の実施時期や学習内容、単元計画等を述べる。第2節「評価の方法の運用」では、教師がいかにして方法モデルを運用したのか、それは子ども自身の自己評価にどのように反映されていたのか、授業の具体をひもときながら説明する。第3章「評価の方法の確立」では、授業を受けた子どものワークシートの分析や討議会での運営指導委員の助言から、評価の方法の確立に向けて検討したことを報告する。

8. 創造的実践力における評価活動の充実に向けて

本章では、7章での授業実践を受けて、最終的な創造的実践力の評価の視点と方法のモデルを提案する。更に、それを運用した評価活動の充実に向けた、今後の方向性を述べる。

第1節「評価の視点と方法のモデル完成」では、実践と検討を重ね、確立した評価モデルを示す。第2節「今後の研究の方向性」では、評価モデルが完成した後、カリキュラム開発の実践研究をどのように進めるべきか、その方向性を論ずる。第3節「創造的実践力の評価の視点と方法のモデル活用のために」では、この評価モデルの活用に向けて必要となることに言及する。